

事 項	日本ナシ「幸水」の果実肥大のためのホルクロルフェニユロン液剤（フルメット液剤）の使い方		
ね ら い	日本ナシ「幸水」に対するホルクロルフェニユロン液剤（フルメット液剤）処理を検討したところ、果実肥大効果が得られたので、その使用法を参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 ホルクロルフェニユロン液剤（フルメット液剤）の使い方</p> <p>(1) 適用作物及び品種 日本ナシ「幸水」</p> <p>(2) 使用目的 果実の肥大促進</p> <p>(3) 処理方法 果実散布 電池式ハンドスプレーを使用し、薬液が果実に十分かかるように散布する。</p> <p>(4) 使用時期 満開10～20日後</p> <p>(5) 使用濃度 10～15ppm</p> <p>(6) 使用回数 1回</p> <p>2 使用上の留意事項</p> <p>(1) 熟期は無処理果実と同等かやや遅れる傾向にあるので収穫時期を誤らないように注意する。</p> <p>(2) 調整した薬液は当日に使い切る（分解による効果の低下）。</p> <p>(3) 処理後の降雨は効果を減ずるので降雨が予想される場合は処理しない。 また、異常な高低温、乾燥等が続くときは使用しない。</p> <p>(4) 適正着果量を厳守し樹勢を適正に保つ。</p> <p>3 薬剤名等</p> <p>(1) 一般名 ホルクロルフェニユロン液剤</p> <p>(2) 商品名 フルメット液剤</p> <p>(3) 成分 ホルクロルフェニユロン〔1-(2クロル-4-ピリジル)-3-フェニル尿素〕0.10%、有機溶剤・界面活性剤等99.9%</p> <p>(4) 作用性 細胞分裂促進、細胞数の増加促進</p> <p>(5) 毒性・魚毒性 普通物 B類</p>		
期待される効果	果実肥大促進効果による収量の増加		
利用上の注意事項	処理に要する時間は10a当たり11～15時間である。		
担 当	青森県りんご試験場 県南果樹研究センター 栽培育種部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成10～11年度 りんご試験場県南果樹研究センター試験成績集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 果重及び良品果率

(平成10～11年 青森りんご試県南果研セ)

区	果 重 (g) ^z	
	平成10年	平成11年
1	471.1 (142)	279.2 (103) ^y
2	390.6 (117)	279.7 (103)
3	372.1 (112)	303.4 (112)
4	347.2 (105)	294.7 (109)
5	332.3 (100)	270.7 (100)

- 注1) 1区は満開10日後10ppm処理、2区は満開20日後10ppm処理、3区は満開10日後15ppm処理、4区は満開20日後15ppm処理、5区は無処理
表1～表4、図1も同様
2) ^z 平成10年は21～30果平均、平成11年は51～107果平均
3) ^y 無処理区を100とした割合

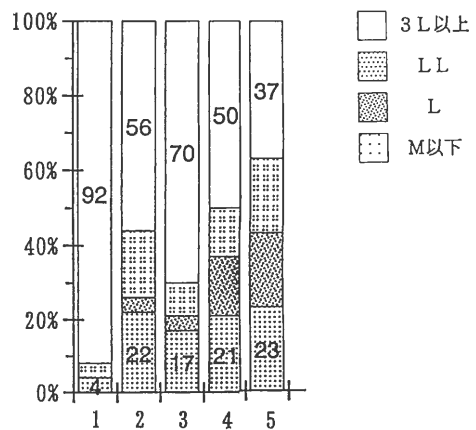


図1 処理別規格割合
(平成10年 青森りんご試県南果研セ)

表2 果実品質

(平成10～11年 青森りんご試県南果研セ)

区	平成10年				平成11年			
	地色 ^z	硬度 ^y (lbs)	糖度 (%)	酸度 ^x (%)	地色 ^z	硬度 ^y (lbs)	糖度 (%)	酸度 ^x (%)
1	3.9	5.0	11.3	0.16	3.0	6.0	10.9	0.10
2	3.1	5.1	10.7	0.14	2.5	6.3	10.8	0.09
3	3.4	5.2	11.2	0.15	2.5	5.8	10.5	0.09
4	3.9	4.8	10.5	0.15	2.6	7.2	10.1	0.09
5	3.9	4.4	10.9	0.17	3.4	6.0	10.7	0.08

- 注1) ^z 日本ナシカラーチャートを使用
2) ^y 果実縦断面をマグネステラー (5/16インチプランジャー) で2ヶ所測定
3) ^x リンゴ酸換算

表3 処理時間

区	10a当たり ^z (時間)
1	11.9
2	11.8
3	15.4
4	11.2
5	—

注) 1果当たりの処理時間から10,000果当たりに換算した時間

表4 果 形

区	L/D比 ^y	
	平成10年	平成11年
1	0.92	0.84
2	0.90	0.83
3	0.89	0.82
4	0.89	0.82
5	0.89	0.83

注) L/D比は縦経、横経とも最大値を使用し算出した